



# 新型コロナウイルスの影響下における 兵庫県内の芸術文化活動に関するアンケート調査 集計速報

---

## 【資料：自由記述】

---

調査主体：神戸大学大学院国際文化学研究科 藤野研究室

協力：公益財団法人兵庫県芸術文化協会/公益財団法人神戸市民文化振興財団/公益財団法人宝塚市文化財団  
公益財団法人明石文化国際創生財団/公益財団法人尼崎市文化振興財団/西脇市文化・スポーツ振興財団  
公益財団法人川西市文化・スポーツ振興財団/豊岡市/公益財団法人神戸文化支援基金/神戸演劇鑑賞会  
神戸中央おやこ劇場/神戸映画サークル協議会/兵庫県合唱連盟/神戸大アートマネジメント研究会 他

# はじめに

この資料は、以下の質問に対する回答を紹介するものです。

1. 現在の活動について、ご自由にお書きください。(すでに実践されている取り組みなど) (個人対象Q17-1、団体・事業所対象Q16-1)
2. 支援策に対するご意見やご提案があれば、ご自由にお書きください。(個人対象Q17-2、団体・事業所対象Q16-2)

※なお、少数ではあるが以下の質問項目の「その他」を選択し、文章を書き留めたものについても、この資料に分類した。

#### 【個人対象】

Q13. 新型コロナウイルスの影響により、現在困っていること・不安に思っていることは何ですか？当てはまるものを以下から選択してください。(複数回答可)

Q14. 新型コロナウイルスの影響により、これから半年から1年後に困りそうなこと、不安なことは何ですか？当てはまるものを以下から選択してください。(複数回答可)

Q15. 現在から1年程度の間に芸術文化活動の支援のうち、どのような支援が必要だと感じますか？当てはまるものを以下から選択してください。(複数回答可)

Q16-2. 既存の支援策や制度のうち、活用している、または活用を検討している支援策や制度として当てはまるものを以下から選択してください。(複数回答可)

#### 【団体・事業所対象】

Q12. 新型コロナウイルスの影響により、現在困っていること・不安に思っていることは何ですか？当てはまるものを以下から選択してください。(複数回答可)

Q13. 新型コロナウイルスの影響により、これから半年から1年後に困りそうなこと、不安なことは何ですか？当てはまるものを以下から選択してください。(複数回答可)

2つの質問によって得られた回答には共通の分類で整理できるものが多かったため、次ページの「自由記述の傾向」の分類に沿って一括して以下のように整理しています。

- ①有効回答は、個人221件、団体・事業所72件。
- ②ほぼ同様のものは一つを除き省略、個人が特定できるものは要約、複合的なものは分割、誤字脱字を修正した。
- ③次ページのとおりの傾向ごとに分類し、整理した。
- ④全体としてメッセージがあるものは原文をなるべく生かした。
- ⑤個人からの回答は○、団体・事業所からの回答は●を文頭につけた。

# 自由記述の傾向



○経済的な支援も大事とは思いますが、「横並び」的、「自粛警察」的な風潮の解消に努めてほしい。特にクラシック関連の施設・団体は、もう十分過ぎるくらいの対応策を、超真剣・超真面目に実践している。プレーヤー・お客さんともほとんどの人は「いつまでこんなことが続くのか」という気持ちだと思う。誰かが早く、勇気ある一歩を踏み出してほしい。

○活動再開を前提にした支援策では、技術スタッフは活用出来ない。

技術スタッフは、興行主が興行を打って初めて仕事が発生する。

生活費が困窮しているスタッフがほとんどなのに、公演を打たないと支援が出ないとは…

○わかりやすく、平易な形で、継続的な支援を求めます。

○支援策も大切ですが、劇場から離れてしまったお客様をどうやって戻すかが重要だと思います。

○文化は、一度途切れるとなかなか復興が難しいので、プロの方々の意欲と生活を守ってほしいと思います。

○ドイツ・フランス並み、とまでは行かなくても、せめてその半分か程度の支援が欲しいですね。この状態が続けば、芸術文化業界に夢を見る人が減り、若い人が育たなくなるでしょう。

○公演開催のリスク／損失をカバーできる支援があれば。

○後進の指導に関しては、オンラインではなく、早く実践形式で再開したいと思っています。

- 来客が少なくとも、ライブイベントは潰えることなく続いてほしい。
- ホール入場者数が極端に制限されており、チケット収入が激減している。今後もこの状況が続く事を予想すると、継続した支援が必須。
- 自分の事よりもお客さんの購買意欲の回復、ウイルスを恐れての観光等の再開を悩む人達への安心感を支える支援、それ以外に感染者が不明なままのイベント開催を無事に終わられるような支援

○大学が封鎖されているため、音楽活動をする場所が存在しない。元から公民館などは音出しができなかったこともあり、練習場所がそもそも存在しない。学生吹奏楽団体として、なによりも場所の支援が欲しいと感じる。

○利用料金制度を導入している文化施設において、収入が元の状態に戻るまでにかなりの期間を要することになると想像されるが、何らかの形で財政支援の必要性を感じる。

○2、30人で安心して使える場所を提供してほしいです。

○野外ステージの設営など三密を避けることのできる空間づくり。

●公民館の使用料を下げしてほしい。

●専門的な観点での対応策を相談できる先があれば教えていただきたい。また、このことに絡んで、様々な経費が必要になっており、市に補填供給を行っているが、現状、指定管理者負担になっている。

●年間を通して、プロの舞台演劇などを鑑賞する団体として、ホールなど会場の入場数制限は致命的です。ステージ数を増やすためには、劇団へ支払う公演料、1日増やすための宿泊費、会場費と付帯設備費など膨大な出費となります。会員制で予算を組んで実施しているため、この状況が続くことは、会の存続に関わります。人数制限の緩和が難しいのであれば、支援金が必要です。

また、ワークショップなどは、参加する親子の参加費でまかなっています。入場数制限により会場費が増えると参加費の値上げにつながり参加がしにくくなります。入場数にあわせた会場費に減額または支援策を講じてほしいです。

●どうしても財源がない団体には感染対策に限界が出てしまうので、大人数収容できるホールにはサーモグラフィの導入などの支援があればいいのになと思います。

- 感染防止のために減らした座席数分の、資金的な援助。創作に関する場作りが必要。
- 感染予防対策を主催者側では予測のつかないこともあるので会場側でできる支援をお願いしたい
- 当館は膨大な文化遺産を所蔵。個人が維持するのは限界。社会の手で守ってほしい。
- 自社保有の小舞台では、客席数を減らし、舞台と客席の間にビニールシートを貼る等の対策を講じて舞台活動を再開しているが、貸し館を使用  
しての興行については、館からの明確な指示がなく、どの程度まで主催団体が責任を負うかが不明瞭で、対策や広報において、どの程度まで積極  
的に行えばよいか思案している。

- フリーで合唱の伴奏者をしています。例年なら年に10回程度公開演奏もおこなっていますが、文化庁の支援には条件が合わず対象にはならないようです。何か利用できる支援があれば、嬉しいと思います。
- 若い人から順番に現場を去っていく。動画企画のような、報酬制の支援があれば若い人を起用して打ち込める。
- 制作発表は、創意工夫で資金がなくてもできます。アーティストは生活費に困っていて、アトリエの家賃や水光熱費にも使用できる、自由に使える資金へのご支援をお願いしたいです。
- 自身だけへの支援はとても充実していますが、我々の活動は何人かの共同開催が多く、見る側も様々な人の作品を一度に見られることを期待しています。しかし、文化庁や日本芸術文化振興会など広域な組織はどうしても団体の支援は組合レベルの構成を求められ、身軽なグループ団体は制限されてしまい多彩な特色が魅力である企画ほど支援を受けることが出来ません。これが現在の縮小化する芸術文化がさらに衰退するのを抑えられない一因であると思えます。支援策の中でもとても良い条件の物ほど結局「使えない支援」になってしまうのが現状です。
- 芸術文化支援は、とにかく実演家やイベント（公演、展示など）が対象になりがちだが、彼らを支える人々（制作、技術スタッフなど）がいなければ芸術文化活動は成立しない。技能分野を限定しない支援策が必要だと思います（緊急時は特に）。
- アマチュアの団体にも支援金を給付する(色々な用品を購入するため)。アーティストとして活動する芸術家には支援金を支給する(プロフィールや活動が分かる資料を提出する等の簡易な審査にて)。
- イベント主催者への支援をお願いします。



○中止になった公演の、いただくはずだった謝礼金額について、主催者が承認した書類を公的機関に持って行けば現金が振り込まれる支援策。「給与」で一括りにしない支払調書。またその修正申告の受付（税務署に、納税額が変わらず、内訳が変わるだけなら、受け付けられないと言われた）。それが無理なら給与と雑所得を合わせた年間収入で判断してほしい。フリーランスへの理解を！

○会場費の半額支援より、制作費の支援をお願いしたい。

○私は週一回大学の非常勤をしています。支援策を受けるにはそれがネックとなって、フリーランスの扱いにはならないし、専任職でないので本来の支援も受けられません。演奏会も演奏料は支払われるけれど、入場は無料といった演奏会に関しては、殆どの支援機関が無料演奏会を対象とはしていません。介護施設や、教育現場、福祉関係での演奏も全て対象から外れます。これは演奏を提供する側からも、受ける側からおかしいことだと思います。無料演奏会やボランティアでなく、プロが本物を提供する演奏会（ギャラが支払われます）については、もっと国や自治体の意識を高く持っていただき、価値を認めていただきたいと思います。

○他の設問でも書きましたが、県や市の支援策において映画鑑賞批評活動を除外しないでほしいです。

○映画の上映会のほか演劇、音楽鑑賞など市民による鑑賞、普及活動への支援もあればありがたい。

○三密対策で収容人数を半分にした補助を行ってほしい。会場費の半額助成などではとても補えない。アマチュアの小劇団への援助がないのではないかな。

○サラリーマンの扶養家族になっていても、世帯主の会社からは自営業扱いされ、持続化給付金では扶養家族扱いで対象外、家計の足しになればと細々としている仕事を思いっきり無視されたような気持ちで、無茶苦茶腹が立ちました。こんな制度の狭間にいるような人達を救済する制度はないものかと、思ってしまいます。

○芸術よりもなによりもまずは医療に対する投資、人材派遣を頑張っ欲しい。芸術家は死と隣り合わせの医者とは違い、時間が経てばいつでもやり直せると思う。

○お金で場当たりの援助するよりも、このコロナ期を活用して、セカンドスキルなどこれからの音楽家が世の中生きていけるような教育の見直しを抜本的にはかってほしい。音大、芸大ありすぎるし、コンクール業界など搾取するだけ搾取して後はしらんぷり。儲けるだけ儲ける事務所や、業界。上澄みにいらっしゃる教授陣。ここを切り崩さないと廃人のような優秀な若者を製造していると言っても過言ではないと思う。

○現在は、活動拠点である大学で活動できないため、全く楽器が吹けない状態で困っています。  
しかし趣味の領域なので、職業にしている方々に対して先に支援をお願いしたいです。

●コロナ禍でのこれから先も暗中模索が続きます。団員に従事者としての給与は支払ってはおりませんが、日々の活動においてアルバイト的に少額ですが支払っており、フリーランスである彼らの生活の維持をも考えていかなければなりません。文化への支援が、それを支える人々（不安定な生活者が多いです）の安定につながるものであることを切に願います。

- コロナの衛生商品などを、補助して欲しい
- 強力な抗ウイルス空気清浄機開発・普及支援
- オンラインでの活動に限定された場合の必要な機器設置の支援があればありがたい。

○支援を適切な形で、必要としている方に！ちゃんと届いて一緒に考えてくれるとありがたい。

○助成金の申請書類の書き方等で困っている人が周囲に多く見られるので、様式の簡素化や相談窓口の拡充(特に税務的な手続きについて)、制度の周知(ポータルサイトのようなもの)があると良いのではないかと思います。

○いろんな支援策を各所が提示してくださっているのはありがたいと思いつつ、特に自分で取りにいかねば分からない行政サイドの支援など多岐にわたり過ぎていて、煩雑に思う。結局口コミなどに頼ることになりがちだが、今回のことに限らず、そういう情報をまとめてうまくコーディネートできるような仕組みができないものか？と思う。情報過多の昨今、いろんなよい情報も流れてしまいがちでもったいないのではないのでしょうか。(しかしその働きによって、収入を得ることができなければ、その役割を担うことも難しいと思うので、結局は大きな仕組みづくりが必須になるのかなぁと思うと先は長い、、、と思ってしまう。)

○練習より演奏会本番をやることのハードルが高くなっているので安全に演奏会をする方法を周知してほしい。

○色々な支援がありますが、情報が回ってこなかったり、申請方法が複雑すぎたりと、機会をのがしてしまうパターンが多いような気がします。アンケートの中でも知らなかった支援が沢山ありました。

○支援相談が楽にできればいい。三密回避のため出向きにくいので区役所に電話したが適当に扱われた。

○支援策情報を広く周知させてほしいと思う。文化財団のない自治体では知り得ようがない。また、支援策は給付金で無くてもアマチュアに対しては活動継続のためのオンラインセミナー、オンラインでのワークショップを身近な拠点でできるようホール、施設などで有線LANなど整備してほしい。

○これからホールでの演奏会を控えており、他団体でどのように感染対策の取り組みを行っているのか、参考になる事例があれば知りたい。情報共有がしたい。

●今回のアンケートで、こんなに色々な支援制度があるのだと知りました。

○感染拡大予防対策の基準（どこまでやるか？）がよくわからない。施設・団体ごとに対策を講じているが、多くの項目を対策に挙げている施設・団体もあれば、4項目くらいの対策のところもある。感染症対策をしても水準が社会活動のなかで担保されていないなかで、現在のような自粛をして意味があるのか不明。劇場での観劇中より、観劇に行く往復の交通機関や駅、観劇後の会食の方が感染リスクは高いのでは？

○専門家も指摘されている通り、黙って静かに聴くクラシックコンサートは感染リスクがほとんどないと言われておりますが、イベントとして一括して規制対象になり、また世間の目も厳しく、開催しても集客が困難です。行政が主導して、是非クラシックコンサートの安全性をアピールしていただきたいと思います。

○まずは医療機関・医療従事者を支えて、医療崩壊及び、感染拡大を防いで欲しい。そのうえで、芸術・文化活動関係者のPCR検査や膠原検査を完全実施して、公演や講座が開催できるように自治体も政府も取り組んでもらいたい。

○合唱団が集まって成果を披露する発表会がすべて中止になっています。公的な会館でどうすれば発表会を開催できるかを具体的にガイドラインを作成して欲しいです。そのための制作資金の補助とシステムを開発、啓蒙していただきたいです。

○いろんなケースに対応したガイドライン

○小規模アンサンブル団体を主催、合唱団に所属しています。16-1で記載したように三密を回避し対策をした上で練習を再開しています。逆にこれ以上の対策は「活動しないこと」くらいしかありません。ウイルスの出始めに合唱団がクラスターになったことが大々的に報道されたために、世間的に音楽や特に歌のすべてが「一番悪いこと」とされ槍玉に上がっています。たしかに科学的に納得出来ますが、同じ状況を作り出すのは音楽ではありません。万全の対策をして感染者を出すリスクを負っても、音楽を死滅させないことが大事だという風潮ができ、どんな活動であろうと「感染したら責めずにさらなる対策を」という認識が一般的となるような施策を望みます。

○コロナ対策を自主的に考えおこなわなければいけない状況に、不安があり労力を使う。ガイドラインや指針があれば。

○助成金などの支援策は、十分かどうかを問わなければ一旦行き届いたのではないかと考えています。今後、有観客での芸術活動を再開させていくには、十分な対策が施されていたにも関わらずクラスターなどが発生してしまった場合に、社会の批判に晒されない対策を行ってくれる相談・対策室や、クラスター発生などで公演中止を余儀なくされた場合の保証が充実されていけば、自由な表現が戻って来るのではないかと思います。

○文化集客施設につき、設置者（自治体）に各種相談を行っているが、資金面も施設のあり方についても踏み込んでもらえない。特にこのたびの感染症という事態に関して、従来から縦割りでオール役所の複合的な知見で対応という仕組み・意識がないため、実効性のある相談に乗ってもらえない（所管部署には「各現場で個別に」、保健関連の部署には「自分たちの役割ではない」と言われる）。

対応は後手後手。記入時点（第二波拡大中）での最大の問題「実際に感染者が発生したときにどうするか」について、所管部署は検討していない様子。

○まず感染防止対策のルールを統一してほしいのと、感染対策をしても誰でもいつ感染してしまうかわからないという事を全員が理解してほしいと思います。

○プロの仕事に差し障りがないように自粛しているアマチュアが多いことと思います。模索中ですが活動指針モデルを明確にしていいただければ幸いです。

○感染対策、医療の専門家から、個展やグループ展、絵画教室の体制について、専門的なアドバイスがほしいです。

●様々な情報が飛び交っており、何を基準とするかが常に課題です。クラシック音楽のジャンルに関しては、条件がある程度限定されると思われるので、大きな指針が早く策定・共有されるとよいと考えています。

- 市民が安心して観客になりうる感染対策の充実を図ってもらいたい。思いきった宣伝がしにくい環境が根付いている。
- 合唱練習における飛沫感染の危険性を正しく認識したいです。過剰に反応しすぎている様子もあり、練習する上で窮屈感があります。
- 当館は、施設の5階6階に大ホールがあり、3階に休日診療所があることから、日曜祝日は、ロビーとエレベーターをホール来館者と休日診療の患者が共有することになっている。例年、インフルエンザ流行期の12月～3月には、多い日には150人の患者が来館することもあり、これにコロナ感染者（かもしれない患者）が加わると、非常に危険な状態となることが予想できる。これに対する対応について、市と協議しているが、明確な回答が得られないまま今日にいたっている。前述した休日診療との併設問題については、館内を抗菌コートし、1階ロビーをパーテーションで分離し、2基あるエレベータを5・6階のホール専用と3階の休日診療用に分離するなど、極力感染が起こらないような対応策を実施していますが、市からは明確な対応策が示されずに今日に至っています。誰もが経験したことのないコロナウイルスへの対策を明確に示すことは難しいのは重々理解していますが、芸術文化を創り・支えている現場を支援する、という観点での施策を期待しています。
- 特に、練習や、集まっての歌唱などに対する、明確な対策ガイドラインの普及が十分ではなく、自重される方が目立ちます。現在感染の山がまた高くなっている時に、この対策をとっておれば、with coronaの安全な生活だといえるガイドラインの徹底普及があれば、もっと積極的な取り組みができると思う。



○動画配信と共にオンライン寄付を受け付けられるような取り組みをしてみたい。県での配信事業でもクラウドファンディングに繋がるような企画があるとありがたいです。

○今後、オンラインによる演劇活動支援と発表の機会提供をお願いしたい。

○無観客でのオンライン用収録に対する半額助成、これでは収入が見込めず出費のみになり、利用する気になれません。

○徐々に活動が再開されたとはいえ、客足は確実に遠のいていますしこの先も恐怖は消えず、集客が益々難しくなると思います。またオンライン配信にしても経験と知識不足のため、配信方法などの情報提供や、配信が収入源の一部となるような仕組み作りも課題の一つだと思っています。

○金銭の支援はもっと要るが、配信事業の有料化の為の課金システムの支援が欲しい。民間各社あるのだが、どれもユーザー、特に45歳以上の顧客が、システムの使用を嫌うので、口座番号を動画で公表し、入金して頂く方式になり、事業とは程遠いので、新たなシステムが欲しい。

○現在、様々な支援事業があることに感謝しています。動画配信事業に参加しました。今後も、すぐに以前のような活動には戻れないと思いますので、その時に応じた新しい形の支援がなされることを期待しています。

●今求めているのは、オンライン配信など、専門性が必要な部分の技術サポート。

●オンラインショップを行うには最低でもネット環境とパソコン、カメラが必要です。今持っているパソコンは15年前のものでスピードが遅くオンラインショップには使えません。パソコン代だけでも支援していただけますと嬉しいです。

○被扶養者だからと言って、現実には生計が同一とは限らないのに、被扶養者だということで持続化給付金が申請出来ないのは納得できない。

○確定申告していなくても受けることができる支援があるとありがたいです。

○音楽のみで家族を養っている方々は大変だと思う。給付金などの申請も、今の状態だと貰いすぎて確定申告時に影響が出たり、行政から何か忠告が入ったりしないかと、不安で申請しづらく様子を見ているのが現状です。本当に明日の事に不安を抱え、深刻に困っている方々に、安心して生活出来るという支援が行き届けば良いと思う。一律給付金も、住所のある人だけだと、住所の無い方々は受け取れないので、何とか苦しい生活をされている方々に支援が行き届けば良いと思う。

○支援は、平等に公平に網羅的に（誰からも不満の出ないように）と考えすぎると何も出来ないのでは？と感じます。感染対策と逆向きにならないような支援であれば、多少片寄ってもいいから進めてほしいです。

●先駆的作品の創作や発表は、経済的に興行できる種類のものではないので、コロナ禍においては、さらに経済的に活動維持が厳しい状況にある。支援策として、従来の補助金システムは、充分ではない。実質上の損失に向けた保障を具体的に補うシステムを確立してもらいたい。

●市や県の既存の助成は1/2が多いが、今期に限り全額助成（支援の総額は1/2の時のままでかまわない）になれば非常に助かる。

●支援策の情報について、知っている人は知っている（申請する）が、知らない人はまったく知らない（特にアーティスト）。情報を知っても申請が難しそうとためらうケースが多い。支援制度の発信の仕方の再検討や、書類の作成スキルや情報の把握度についての個人差をどう埋めるかが支援制度の策定側にも求められているのではないか。

●スピード感が遅すぎる。支援額が少ない。

●簡略な申請で迅速な支給をお願いしたい

●雇用調整成助成金の期間延長と、舞台芸術に対しての支援金を増やしてほしい。このままだと、解散する団体が多いと思う。心のよりどころであり、無くしてはならないものと、感じています。

●いろいろな支援策が出てくるのは非常にありがたいが、申請するにあたり、書類の記載が難しかったり（申請要項を読み解くのに非常に時間がかかるものもある）、どの程度の支援が得られるか（団体や活動による審査の程度）が不明瞭であったりと、事務方の負担ばかりが大きくなっていると感じる。また、支援に対しての芸術団体からの見返りー芸術活動ーについては、動画配信を条件にしたものが多く、対応できない団体も多くあると思われる。

●様々な支援があらゆるところで乱立することで、多少なりとも混乱している部分があります。業種や業務内容によってある程度振り分けられた案内も来ていますが、日常業務をこなしながら全ての助成金をひとつひとつ確認することが難しい現状もあります。受給の条件を簡素化し、より明確な制度設計になることを願っています。

●欧米諸国に比べて、国としての支援が少ないのが現状。県、市はよく頑張ってくれている印象です。

●3月~8月に実施する予定の展覧会行事が直前に中止となり、会場費負担は回避されたが、応募要項、DMハガキ、通信費、等の費用が損失となった。印刷費の損失補てんは出来ないか。

○社会において文化芸術の役割を理解して公的支援を具体的に行って頂きたい。

○指定管理者制度において支援金、助成金などをいただいた場合、次年度の予算規模を減額される可能性があることを懸念するため申請に積極的になれないところがある。

○文化を無くさないために、困難な状況ではあるが、それに従事する立場のものとして、文化芸術の価値などをしっかりと捉え、残すために活動が続けていかななくてはならない。しかし、それは、文化芸術だけの問題ではない、まちの歴史や人の生活にも大きなくらい影響をもたらしている。社会全体として、今の状況を広い視点で見つめ、これからの社会をつくっていかないと感じている。

○財団、NPO、文化協会等が連携し、大学やメディアと協働し、個人・フリーランスにも寄り添ったアソシエーション（連帯組織）を形成して、自治体や国に対して公共性の高い政策提言をすること。

○行政の文化芸術への無理解が情けない。こんな時こそ、文化芸術の重要性をわかっていない首長を市民に知ってほしい。

○そもそも純粋芸術は実用的な存在ではありません。お金にすぐに換算しようとしたり、何かに役立てようとししない支援をお願いしたく存じます。具体的には、一般の皆さんの芸術そのものへの認知度と理解度をあげることなど。日本はその点がそもそも他国に比べて劣っています。

●行政も経済的支援はもちろんだが、「芸術は生命維持にとって必要不可欠」「舞台をみて免疫力アップ！」など、旅行やうがい薬以外にもアピールして欲しい。動画配信による支援も苦肉の策だとは思うが…舞台の魅力は、同じ時間、空間、思いを共有する一期一会のライブ感。視聴者に間違った信号を送らなければよいが…創造者も本来のやりたいことではないのでは？

- 収容人数50%制限も弾力的に見直して欲しい。このままだとやればやる程赤字に。文化は、一朝一夕にはならず、日々の繋がりや積み重ね、人しかない。芸術は「不要不急」ではない。コロナ収束の前に、地域文化が死に絶えてしまうような、そんな危機感がある。
- 各自治体文化財団も事業資金の吐き出しや基本財産の取り崩しを検討せざる得ないと思われます。各種助成制度も、「帯に短し、たすきに長し」という感がある。利用料金や指定管理料に財源を頼っている現状で、自助努力だけでは再建は困難である。県の休業支援金は休業したにもかかわらず、指定管理施設は対象外。一方、指定管理施設にも関わらず、「緊急事態宣言を出したのは県」という自治体もある。雇用調整助成金に頼らざるえない状況だが、芸術文化活動について、自治体によっては、いまだに不要不急と思っているように感じられる。このあたりの意識改革なくして「文化芸術立国」は絵に描いた餅だと思います。
- 本アンケートなどは本来行政が率先して行って欲しいことで、日常の行政のあり方を再構築して欲しい。
- 今年度から5年館、指定管理者として市の施設を管理運営していますが、公募の際に提出した今後の5年間の計画は、コロナにより実行自体が困難になっていくものと思います。そうした中、今必要なことは、withコロナの中でいかに地域の芸術文化を育んでいくか、を考え、推測し、様々な方々・団体と連携しながら、館として、実行計画に落とし込んでいく必要があると考えています。その際に、それらの活動をまとめていく組織が必要ではないか、と考えています。現在は、兵庫県とか、神戸市といった枠組みでの芸術文化を考える組織はないと思いますが、いかがでしょうか？（阪神淡路の際の阪神淡路産業復興機構のようなイメージです。）
- 休館となった3月～5月の施設使用料は、市が補填する方向で検討されていますが、付帯設備費や舞台増員人件費は、補填枠から除外されています。市の指定管理は施設使用料制により、本来であれば、施設使用料と付帯設備費の両方が指定管理者の収入になることから、施設使用料だけが補填されたとしても、もう一方の付帯設備費が補填されないと、指定管理者にとっては、大きな収入減となります。また、増員人件費が補填されないと舞台・音響・照明スタッフ等への支払いができず指定管理者の負担になったり、舞台スタッフを苦しめることになります。補填については、指定管理制度や舞台スタッフとの外注契約など、現場の状況にもう一步踏み込んだ上で、末端まで有効な支援策を望みます。

○動画を作成すれば支援金という文化の表層をうすくなぞっているようで今後この時期を振り返ったときになにも意義のない施策自体がこの国の文化的知見の限界であると感じてしまう。

○支援にも限度があるので特に期待しない。これから芸術の在り方が変わるだろう。確実に言えることは、音楽、演劇など芸術活動は急速に衰退していく。

○支援策よりも新型コロナを指定感染症から外すなど、根本的な対策を強く希望する。新しい生活様式は音楽活動を破壊するので。現状、新型コロナの対応に対して、指定感染症から外すべきとの論調がようやく出てきたが、全面的に賛成している。

○途切れることへの恐れを社会に発信すること。

○コロナに関しては練習したい人、中止したい人の間に入って役員さんは大変な思いをされている方が多いと思います。歌う事よりその調整が本当に大変です。

●神戸文化支援財団（＊神戸文化支援基金？）ですが、助成の規模を拡大し、申請を待つありかたから、今回の調査のように本当に必要なところ、支援の在り方を、こうした私たちも研究したいと考えます。

●文化芸術だけで閉じてしまわず、是非福祉や健康維持ともからめた支援デザインや啓蒙を行ってください。  
一方で、この感染症の重症化スピードの早さや感染力の強さを実感させられる情報もあり、まだまだ気を許せる局面にはないと感じます。拙速に走らず、感染対策や公衆衛生とのバランスをしっかりと見極めていただきたいと思います。

○舞台を継続していけるか、などより、まずは生活の心配が先にきてしまっています。頂いた持続化給付金がなくなれば終わりです。バイトも考えましたが、既に10社ほど落ちました。

○持続化給付金（雑所得で申請していたため）の対象を拡充してほしい。被扶養者が対象外とのことだが、活動資金は自分の収入で確保するしかなく、対象外となるのが、納得いかない。長期間にわたり、演奏収入、指導収入が断たれ、事業を持続していけるのかが不安。収入を得るため、芸術以外の他の仕事を探さないといけないかも検討している。

○舞台やイベントが皆無な中、ネット配信する環境を整える為にも機材の購入など、出費がかさむものの収入はほぼ無い状態での活動はきびしいです。助成金の手続きはハードルが高く受理されない物もあります。今まで自分達が払ってきた税金を困った時に使えないなんて惨めな気持ちになります。

○ネットでの配信を利用して活動はしていますが、金銭の発生はほとんどありません。逆に費用もかからず、すぐに資金に困ることはありませんが半年、1年後を考えると不安になります。

○オンラインレッスンや講義が増えていき、機材を購入したりと環境を整えることを求められるが、先方からの給料は何も変わらず、経済的にはプラスにならない。対面の時より、準備期間がかなりかかるのに、謝礼は何も変わらないので体力と経済が苦しくなる一方です。

○感染予防対策を取りながら上映会を開催しています。でも客足が戻らないので、赤字が膨らむばかりです。

○音楽動画配信に手を出しているが、足りない機材がどんどん出てきて、補助金が足りない。ライブハウスも経営しているが、演者もお客様も、会社からライブハウスに出入り禁止と言われていて、7月30日頃から、また通常の10~30%の活動しか出来なくなっている。



○実際は演奏やレッスンへの報酬なのに、給料という名目で支払われるものが一部あり、確定申告も給料収入となっていて、持続化給付金がもらえない。

○舞台関係で、支援事業（頑張るアーティスト！チャレンジ事業(神戸市民文化振興財団)）などは検討しているものの、再流行により会場使用不可、公演中止になれば、補助金は返さないといけないので、それまでにかかった準備費用（稽古場代、機材、セットにかかる費用）はそのままマイナスになってしまうこと。

○フリーで元から申請するほどの所得もなかった場合、前年との比較が出来ないので国の補助などが降りないし、それまでの収入が無く、ちょうど新しく個人店舗で事業をスタートさせようとしていた人と同じく、コロナのタイミングで活動を本格化するために投資した者にとっては、活動ができなければ、その分を取り戻す手立てが無い。

●神戸市等の会場費助成からも映画上映は外され支援が全くない状態です。また会員更新時期に活動停止した為会員が100人近く減少して、回復をするための方法も苦慮しています。

●会場の客席、楽屋制限が続くと実質開催できない。現状はキャンセル扱いとなり損失が発生してしまう。それでも準備は進めないといけない。

●イベント中止に伴って、事業には関係のない業種でのアルバイトをしています。また、生活費が不足するので、年金の繰り上げ支給の申請をしました。

●経営の見通しが立たなくなること、事務所・施設等の維持ができなくなること、年内はあらゆる支援を活用して我慢します。追加の支援があるか、早期収束の見込みがなければ、業務の縮小や廃業を検討する。



- 展覧会開催が中止となった場合の、損失（会場費・印刷費・通信費）の補てんが出来ない。会場費はキャンセル料の発生に伴い展覧会実施有無の判断をどの時点とするかの検討。特に、緊急事態宣言が発令されていない為、中止の判断は主催者側の自主判断となる。
- コンサートやフェスティバルなど再開に向けて企画を進めていますが、すでに中止になったものもあります。中止の保障はお互い様なので請求しにくく赤字がつもる一方です。

○持続化補助金を受け取れたので、当面は一息ついている。ライブ開催などメドがたてば、補助金などを申請したいが今のところ開催のめどがたない。いっしょに活動している音楽家たちは非常に困窮している。国は文化そのものを国民の財産と捉え大きな受け皿としての支援をしてほしい。

○舞台芸術が生ではなく「オンラインでも良い」となってしまう風潮が心配です。

○行政主導の企画であって、今年度の中止（縮小）が常態化することへの懸念

●オーケストラなので演目によって舞台に乗る人数が決まるが、現状、舞台に乗る人数から演目を決める必要がある。練習が重要なアマチュアオーケストラにとって、先が見通せない状況での選曲・演奏会の実現に不安を感じています。

●このコロナ禍で自主公演を含めた7つもの公演、イベントが中止となり、心はもちろんのこと経済的にも大きく傷つきました。近い将来、もし会場や劇場が使えなくなったらどうしようかという不安。それでもレッスンし、創作していかなば、という義務感。良い踊りを創りたいという願望の中での毎日です。

●座席を減らして公演を行っていますが、コロナ感染拡大で劇場は敬遠されます。

●劇場クラスターとか、そこだけクローズアップされ大変です。コロナは長期戦になりますが、資金面で体力がないので持ちこたえられない。お客さんを多く入れたいが、密になる。四面楚歌。

●従前の顧客（常連さん）の大半は、後期高齢者、前期高齢者なので、万一感染されたときのリスクが高く、三密を回避するのに、人数制限することでの人間関係の調整も微妙ところがあり、とにかく「中止」にしています。手ごろな広さの演奏会場の手当てが出来ず、全く困ったことです。

○教育機関などはしっかり対策しているし、コンサートを主催する側は責任を持って活動しているが、聴きに来る方はそこまで考えていないかもしれないことへの危惧。アマチュア合唱団体は特に高齢の方が多く団体は活動再開は難しいと思われるので、伴奏や共演などの仕事は減っている。

○現在感染拡大防止対策をしながら公演を徐々に再開していますが、企画団体によってかなり温度差があり、団体によっては演奏していない場(楽屋やバックステージなど)の詰め甘さが目立つのですが、フリーランスとしては様々な所に行きますのでコロナに感染してしまった本人に責任転換されそうな恐怖が常にあります。

○やはり私の絵などは、実物を見て頂くのが一番なんですけど、やはりコロナ感染が怖くて外出がしにくい、画廊まで出かけられないという方々も多く、オンラインで作品を自宅で楽しんで頂き、願わくば販売にもつながってってくれるように、、、作家も画廊も祈る思いで頑張っているところです。こんな時に絵が売れるのか・・・ですが、こんな時こそ、アートが、音楽が、もたらす力がきっとあると信じています。

●大学生で新歓がほぼできないので、新入部員を獲得できない。歴史のある部だがそもそも団員が減って来ているところにコロナが重なったので、部の存続に不安を抱いている。

●舞台照明のデザイナーですが、クライアントありきで公演が決定されるため、自主的な活動/工夫に限界があります。

●文化庁の制作など、芸術活動支援は目にしますが、既に莫大な催しがキャンセルされて生活もままならない中でどうやって新たな芸術活動をするのか疑問に思っています。

●8月例会から再開予定。東京からくる劇団はPCR検査が必須。しかし、その費用も高額となり、それに対する支援も考えて欲しい。劇団、鑑賞会それぞれにガイドラインを作成して例会に取り組むが、どれだけ尽くしても0リスクにはならない。もしここからクラスターが発生したら、多方面へ影響がでる不安もある。しかし、活動を止めるわけにはいかず、前に進むしかない。

○市民合唱団の練習が再開され始めたが、危機管理能力や常識に個人差が大きく、一番ルーズな人に合わせて、全員が日に日に気が緩んで行っている。このままでは、10月からの第二波で合唱界に大規模クラスターが起きると感じる。

○合唱団なので、三密にならざるを得ないのが悩みの種。

○マスクやシールドの着用をし演奏活動を再開しているが、技術研鑽に弊害を感じる。

○何にどう当てはまるのかを調べるのに労力をさくか、その時間を使って営業活動するか、焦る気持ちとも相まって判断が揺らぐ。

●クラスターが発生したら責任が取れないと思うと、合唱練習すること自体の是非を考えてしまいます。

●市民による音楽活動団体です。公演チケットやイベント参加料を集めつつも、主な財源は市からの補助金です。市の文化課以外に音楽ホールや福祉センター、教育委員会、市内音楽団体など、ステークホルダーが多いために進め方がわからずにおります。

●客席数100席の劇場だが、貸館は年内はほぼキャンセル。主催事業は、ほぼ9月中旬以降にスケジュールを組み替え、実施を予定している。延期して実施するとは言え、すべて、内容も変更して実施するため、同じ予算で倍以上の時間を要している。また、そのように組みなおしても、さらに変更の可能性があるのは不安である。

●秋以降に公演を予定しているが、感染が拡大する中で、行政指導の指示に従って予防を徹底するものの、観客動員してよいものか、稽古で出演者、スタッフに感染者が出ないか、公演によってクラスターが起ころはしないか、日々悩むところであり、公演活動の継続を熱望するものの、判断に苦しむ状況です。

○能楽の世界は歌舞伎と違い個人事業主ですが、雅楽のように国家公務員のような立場でなければ中々普段の生活さえもしていくのは難しい時代になるのではと、これからの能楽界のことを考えると心配でなりません。ただ、そのような中でも与えてくださる機会を大切に、また楽しみに待ってくださる皆様のご期待に応えられるような舞台を作り出していきたいと考えながら日々を暮らしております。

○メンタルのケアが必要

○私が関わっているのは、単なるお稽古事の範囲ですが、日本の文化がなくなっていくのでは？危惧します。それとは反対に、コロナを踏まえ新しい方向に進んでいく？期待感もある。

○複数のアマチュアの合唱団を指導しています。日ごろから技術向上を求め、コンクールにチャレンジするような熱心な団体はいずれ活動が元通りになると思いますが、「ちょっとした趣味」で活動に参加しているメンバーが以前のように戻って来てくれるか心配です。「音楽の無い生活」が当たり前になってしまわないか、という点です。仲間をリスペクトしながら体を使って声を出す合唱は、不要不急ではありませんが、人間の心の健康を支えられる素晴らしいものであると信じています。コロナがおさまったら、「一緒に歌を歌おう！」という呼びかけを合唱団外に向けて実施したいと思っています。

○オーディションに合格したり大学院修了時の成績で選んでもらったりして掴んだ演奏会がことごとく中止になってしまい、1度しかない大きな機会を失ったことも精神的にとっても辛いです。

○技術者を移動させることが難しく、東京からヘルプ要員が呼べず、大阪・京都も精神的には難しい。一人でできる限りのことを仕事として進めているが、体力・メンタル共に削られている。

○コロナの影響によりヘアメイクのコンテストは3密を回避できないためフォトコンテストのみで対策をとるようにはしています。しかし、アーティストのモチベーションが下がり、悲痛な声をあちこちから耳にしますので、企画者として開催すべきかととても悩むところです。

○「芸術文化活動」の定義をしっかりと理解しないと自分の活動が当てはまるのかどうか不安である。当初から自粛期間は先の見えないクライアントからのキャンセルなど、自分判断だけではない要素も働いたが、今は自己判断に委ねられることが多すぎて、なかなか判断しづらい（忖度が入る！？）ところも多いように感じる。「今、できること」「今、想像しうること」を粛々とこなしていくしかない、と思って進んでいるが、いつまたどうなるかわからないという漠然とした不安がつきまとうのが、フリーランスとしては頼る先がなく、厳しいように思う。

○私自身、芸術大学在学中です。芸大/音大は在学中の学生であれ芸術行為には対価が発生することから職業とも言えます。学生だからなんとかなっている、この先芸術家としての職業1本を目指す中で不安は大きくございます。

○演奏会に向けて、客席を半数に減らす、検温、消毒といった出来る限りの対策はとっていますが、自分がいつ感染するかわからないですし、もしものことがあったらという不安は常に付きまっています。

○全く活動は出来ず、毎日不安しかありません。然し乍ら、今後は新たな手段を模索し、毎日鬱ぐことの無きように確かりとした気持ちを持ち続けたく存じます。

○「政府の要請」だとか「同調圧力」によって、圧殺され、犠牲になっているものがあまりにも多過ぎる。巨大な力をもったマスコミ等が中心になって、「早く第二次緊急事態宣言を出せ」という世論を形成している現状には、心胆寒からしめられる思いがする。

○どこまで対策してもリスクはなくなる不安感、倦怠感

○開催に対するハードルが高すぎる、疲れている。今までのやり方が効かず、どうやっても不安が拭えない。やるしかないが、不測の事態が多すぎる。

○運営する絵画教室では、楽しい内容を考えたり、制作動画を作って生徒さんに配信したりしています。皆様の娯楽が減っているので、少しでも明るい話題が必要だと思います。

○これまでの絵画教室に加え、オンライン授業も始めました。

○オンライン販売を含む企画展への出品を準備

○アーティストによるTシャツ プロジェクトに参加

○再開した活動についてFacebookでしっかり発信をするよう心がけています。

○配信との並行、及び映像分野とコラボレーションをおこなっています。

○リモートでのライブや稽古

○舞台ができないのでパフォーマンス動画を作成してYouTubeにあげている。

○インターネットでの遠距離テレセッションとその配信

○自分たちの活動を忘れられないようにsnsを使っての話題提供？のようなこと。医療従事者の方々への応援を込めた作品の提供。

○ホームページのリニューアル、オンラインギャラリー及びECサイト制作



●実質的な活動は休止状態だが、これ迄の活動整理などを行いホームページ等を充実させていく作業に切り替えて活動を行っていきたいと考えている。

●会員間のSNS等を利用したオンライン交流の拡大

○YouTubeでの演奏動画配信やレッスン動画を生徒に限定公開する等、オンラインでの取り組み。演奏活動再開の目処が立たないため指導活動を充実させるべく、生徒募集のためにブログをこまめに書いて情報発信している。

○オンラインで、人とのコンタクトや状況について、できる限り繋がり把握しようと動いています。

○合唱団員です。自粛の中、活動はオンラインで筋トレを行っていました。

○オンラインでの合唱活動(多重録音した音源と映像をYouTubeで配信)を余儀なくされていますが、今できることを必死に模索し、団体としての活動を止めないように努めています。

○コロナ後を見据えた旅行会社との提携、コロナ禍における介護施設へのバーチャルツアー、留学生及び若年層に向けてのオンライン講義

○配信対応の劇場設備の導入。

○Zoom等でのオンラインでの取材は、やりやすくなっているのを感じます。

○対面で実施していたワークショップなどは、オンラインで行いつつも、参加者といかにして場を共有できるか、参画意識が得られるか模索中。

○歌を擁する活動は全て中止と聞いているが、通常形態ではなく、歌だけ幕内でさせてステージ上でのスクリーンに投射させて他楽器とアンサンブルを見せる、など工夫を凝らすことが可能だと思われる。

○家で練習出来るカラオケCD制作

○楽器を共有するピアノのレッスンでは距離が近く、直接接触することもあります。生徒ごとに教室内及び鍵盤を除菌しています。

○個人演奏家の立場として、今は機会を得るまで自身の実力の向上を諮るしかないと思っています。

○社会人向け吹奏楽団に所属しています。活動は再開しているのですが、再開していることを外部に公表していない(風評被害のリスク防止で)状態です。

○出演者も客も距離を保った公演

○ SNS及び郵送での作品販売

○本番を設定せず、編成を半分に減らし、ソーシャルディスタンスを確保して練習しています。

○客数を減らしての再開を検討しているところです。

○集客人数を半数以下に減らしてコンサートを開催している。

○ピアノ教室を経営しています。緊急事態宣言の期間は、オンラインレッスンを主として行ってきました。6月より、感染対策に力を入れながら、対面レッスンを再開しています。コロナによる外出自粛により、生徒たちも心にストレスを抱えている様子が多くみて取れました。こんな時こそ音楽の力で、子供達の心にパワーを与える必要があると信じて、生徒、保護者とも協力しながらレッスンを続けています。子供達のコンクール、発表会が軒並み中止になっており、モチベーションの維持に難しさを感じます。現在は自宅の教室の生徒のためにオンラインの発表会を企画しています。

○感染が広がった時はオンラインに切り替えるが、対面時と比べて料金設定を安くしている。また、オンラインに切り替えるタイミングが難しい。日々のレッスン前後に除菌をしていて負担と感じてきている。

○演奏家だけでなく、子どもたちもコンクールや発表会などの機会が失われ、楽しみや刺激が減っています。そこで、子どもたちの勉強会もかねて、プロの演奏の場を作ります(11月)。また12月には、声楽とピアノのジョイントコンサートを行います。集客数よりもお越し下さった方、出演者の安全に気を配りたいと思っています。

○これまでの活動資料の整理

○少人数でのワークショップ

○屋外での音楽練習（3密避け、フェイスガードなど）

○施設運営について。4月オープン予定だったが延期となり、オンライン開館を企画。専門業者に依頼し、館内を開館記念展の様子も含めて3D撮影し、5月にHPでコンテンツを公開した。その後、6月に入館制限付きでオープン。8月からは一部の制限を緩和した。

○現在は自宅の教室で指導活動を行いながら、自身の技術の研鑽、またオンラインコンクールへの応募をしながら過ごしている。

○構成員としては、団体作成のガイドラインにもとづいて、基本的な感染対策や日常の健康管理・健康維持につとめています。

○自粛や活動の制限を行っており、時間に余裕があるので、新しいプログラムであったり、今まで触れてこなかった他ジャンルのものを深く勉強しています。

○演奏会が再開された時の準備、CDのレコーディングに向けての練習

○弦楽器はソーシャルディスタンスとマスクの着用でアンサンブルを再開したが、管楽器含めたオーケストラとしての活動再開の目処が立っていません。

○透明なカーテンの設置、手洗い

○マイク滅菌、専用シールド考案、強制排気設備導入、検温、連絡先記入、消毒徹底、人数制限等、ガイドライン遵守にて対応。

○稽古場ではマスク着用、劇場では体温測定、換気を実施など

○マスク、フェイスシールド、ビニールシート等をもちいて、後進の指導を再開しました。

○活動参加人数の記録

○合唱練習時に体温測定後記入(記録は3週間保管)

○発表機会は限定されるが、発表機会の調査とともに、創作活動を自宅で開始している。

○コーラス指導をしておりますが、パート練習など少人数の練習のみで動いています。毎回消毒、アクリル板パーティションなどを使い、マスク着用で離れて練習しています。

○活動により感染者が出ることが最大の問題。団体で行うものは、人の距離や換気に配慮しながら再開。ただし休団、退団を表明する人も少ない。音楽でも、例えば弦楽器の人は、歌の人がどれほど悩んでいるか分からずに（興味の濃淡により情報収集に差が生じ）温度差が発生している。

○対面にならず、マウスシールドを用いて、換気をしながら発声してます。

○施設の消毒、換気、接触回避のための手作業的な対応。利用者との従来以上に綿密な打ち合わせ（舞台、客席、表回り）、利用者の計画策定への噛み込み、利用状況確認。自分の施設から感染者が出ないように、手作業的にできることについては出来る限りのことをやっている。一方で、万が一発生者が出了時にどのように対応するかも検討し始めている。現在の状況では、業界側の努力とは関係なく、どこでも発生しうる状況であり実際発生もしており、努力しながら祈るばかりの状況。

○厚生労働省のガイドラインに沿って感染防止に取り組みながら、稽古を再開している。

○感染症予防対策の基礎になる「コロナ感染」に対する、科学的裏付けのある根拠を学習する。合わせて感染症対策の専門家による正しい感染症に対する知識の普及。

○小さなグループから発表会を始める準備をしている

○自宅練習。1回/月だけメンバーと集まって広い部屋でソーシャルディスタンスをとりながら練習。広い空間で少人数で行われる依頼があればボランティア演奏を行う

○練習トライアルを始めたが、世間で陽性者が増えたため、とりあえず練習トライアルを中止した。

○現在はオンラインでの稽古・ソーシャルディスタンスを確保した上での対面稽古を再開しています。

○レッスンなどの前後に換気・消毒の時間を設け、できるだけ待合で人が合わずに済むようにレッスン数を減らし、日程を調整している。

○自宅にて個人練習などでクオリティーを下げないように思慮しています。

- 野外展示で諏訪山公園に繋がる道路から見える環境なのでコロナ以前と何ら変わらず、ほぼ年中無休を続行しております。公共施設が全面閉館の時期は、返って公園へ遊びに行かれる家族連れなど増えたぐらいです。
- 元々小規模団体のため、通常通りの会場で活動を行っても三密を回避できる。検温と参加人員の記録、換気、ディスタンス、マスク等の対策の上活動を実施。
- 感染対策について個人で情報収集を行い、全国公民館連合会や全日本合唱連盟のガイドラインを参考にしながら、団体の練習再開にあたってのガイドラインを策定しました。芦屋合唱協会の勉強会やコーラスカンパニーのウェビナーも大変参考になりました。休止中も毎週Zoomミーティングを開催しました。
- 当会の親子で楽しめる活動は、3密を避けることが難しいです。小中高全校休校の要請に、やむを得ず3月から7月のすべての鑑賞例会と行事予定を中止しました。子どもの時間は一生の中では短い期間であり、親子の時間もかけがえのないものです。現在、消毒方法、席わり、検温方法など検討し準備中です。赤字は避けられませんが、参加してくれる親子が楽しい時間を過ごせるようにしたいと思います。
- 7月中旬に2つのコンサートを開催した。両コンサートとも各センターと共催で行っており、事前の感染対策を十分にすることができ、もう3週間を経過しているが、特に問題点はなかった。当日のお客様のアンケートには、「このような状況の中、開催していただき心より感謝申し上げます。今日が希望のスタートとなり改めて音楽に触れる喜びを感じています。」などのようなうれしいご意見がたくさん見られた。
- 現在は兵庫県興行協会からのガイドラインに従い、座席数を半分にし、検温の実施、除菌作業の徹底、除菌スプレーの各所設置、お客様にマスク着用を義務化、スタッフの手袋着用などを実施しております。
- 4月19日の開館が延期になり、6月1日より一部開館。8月6日より全面開放。入館者の体温と消毒液の設置をしています。ご利用者からマスクの着用、間隔をあけるなど、自主的な協力により感染者がでておらずにあります。

- 映画館で座席数を約半分に減らして営業
- ライブ会場への入場者は 1/5 以下に制限して有料配信ライブを始めた。
- 9月末～10月頭にかけて稽古場公演を企画、現在稽古をしている。
- 8月27日から上映会を再開します。60歳を超える会員が多いので感染対策をしっかりと取っていききたいと思います。



# 実践している・すべき・するつもり

## 支援

○収入が少なくなりましたが、以前からのものを切り崩して演奏家の方への研鑽場への支援を個人的に行ってます。

●「神戸文化支援基金」からの支援金は大変ありがたかった。活動を絶やしてはいけないとの強い使命感を持った。公演を継続できるよう工夫を凝らして続けたい。

○レッスンでは生徒同士の接触を避けて換気するためレッスンの合間を空けざるを得ず、生徒数が減少しましたが、新規生徒を募集しにくい状況です。

○自宅レッスンでは生徒数も少ないので生徒間に換気消毒等は徹底しています。頂いた動画配信のお仕事、9月のコンサートのお仕事はホール側の細部に渡る対策で不安感はあまりなく臨めています。

○演劇に関して、劇場の密について議論がなされているが、まず一番最初の壁は「稽古場の密」。これが回避出来ない限りは再開は不可能。自力での対策が難しい弱小劇団などは活動が出来ない。ほとんどの劇団は出演者、スタッフ全員のPCR検査など無理だろう。劇団が活動再開しない限り、スタッフの仕事はない。どんどん感覚が鈍る気がする。後進の育成も出来ない。プロアマ問わず、演劇の危機を感じる。

○芸術分野においては、やはり本物に触れる、実際のものを見ることが魅力だと思います。

動画でも写真でもまかなえないことを観て感じ取る！為には、感染防止の上では本当に難しいです。いまだ手探りの状態ですが、目の前にある生活空間に芸術を取り入れ（飾るなど）潤いを持ち続けること、し続けること、そしてそれを勧めていくこと、このことが一人一人の文化向上につながると信じることで気を鎮め、教授活動をしています。

○私自身の現在のお仕事は、ほとんど自分のアトリエで作品を制作をすることだけです。作品発表は東京や海外で展覧会を開催していただくことがメインとなっており、展覧会が開催できてお客様がいらして下さるのであれば、私が会場へ行けないことくらいのもので、以前からの生活とほとんど変わりません。

○例年より制作時間を多めに確保できています。

○収入となる活動ではないが、個展を8月に開催して創作活動の発信をしている。

○編曲、執筆活動の準備をしている。

○能楽という日本を代表する伝統芸能の分野にしながら今の時代にそぐわないのか、なかなか興味さえ持っていただけないような気がします。そのような中でも兵庫県や県民会館の皆様が声かけくださり、何とか活動の場を作ってくださいのお気持ちに応えたく、コロナ禍の中、活動を続けていきたいと思っております。

○現在感染拡大防止対策をしながら公演を徐々に再開していますが、企画団体によってかなり温度差があり、団体によっては演奏していない場(楽屋やバックステージなど)の詰めの甘さが目立つ

○弦楽器はソーシャルディスタンスとマスクの着用でアンサンブルを再開したが、管楽器含めたオーケストラとしての活動再開の目処が立っていません。

○アマチュアオーケストラです。メンバーの居住地が広域にわたる、医療福祉関係者がいる、高齢者がいるなど一堂に集まっての活動がしにくい状況です。練習施設の使用規制に吹奏楽が入っており、オーケストラも管楽器があるため一律に使用できないとされています。

○合唱団のメンバーとグループLINEの通話機能を使ってパート別の音取りをしています。タイムラグがあってハーモニーに出来ないことが残念です。

○全日本合唱連盟のガイドラインに基づき毎週2時間の練習をおこなっている。アマチュアの活動は生活の糧では無いが合唱を通じて人と人を結ぶ役目が大きいと思っている。コロナ感染で不安になってる今、練習を通じてお互いを励まし合い、ストレスを解消することにより日々の生活の質の向上に大いに役立つと思う。

○一参加者に過ぎない立場のため、所属団体自体が活動できなければ、私も何も活動できません。

○なにも活動できていません。

○アマチュアなので、各自個人練習をしています。

○後進の指導

○舞台スタッフです。現在収入がありません。家で本を読み知識を深めることしかできません。

○まずは延期となった展示開催に向けての準備を行なっています。本来今頃は就職または週5日程度のアルバイトについている予定でしたが、現在、仕事はフリーランスとしてたまに受ける程度となっています。

○教育現場での練習はほぼ従来通りにできるようになった。個人的な活動は停止中。再開のめどもない。

○ギャラリー運営。展覧会の開催と地域の居場所づくりの役割をもっているのですが、新型コロナウイルスで緊急事態宣言の時も営業は続けていた。但し、個展は5～10月のものはキャンセルなので、企画展に切り替えている。

一方、個人としても朗読コンサートライブなどを行ってきたが、これはすべて中止。再開の見通しはまだたっていない。

○寄席は定員を半分に以下の再開です。いつ休業要請が出るかわからない中で公演を再開していますが、特に新規のお客さん獲得が難しいと思いました。

○会社からの一律自粛要請に困っている。

○自身が感染源にならないよう、注意しています。

○文化施設の主に自主事業に携わる職員です。自主事業は3月以降8月まで中止、緊急事態宣言下で施設が臨時休館となりましたが、リモートワークで事業の中止対応や9月以降の事業の準備や方法の見直しなどを行いました。現在は、休業を組み合わせながら、後半期や来年度の事業の準備に取りかかっている段階です。しかしながら、準備をしても中止になってしまう不安や収支が厳しいなど、モチベーション維持が大変です。

○舞台の場を作りたいが、お客様が入らなければ大赤字になるので、劇団員の負担が増えるだけなようで出来ない。ただでさえノルマ制なので…。

○音楽実演のためには観客とのコンタクトが必要だが新型コロナのためにそれが大きく制限を受けている。可能ならオンラインでの活動を始めたが、必要な機器がないため投資すべきかどうか迷っている。

○例年とは違う形での発表会を開催予定

○音楽を生で安心して聴く機会はしばらくの間少なくなると思います。小規模の公演を数多く行う、動画配信する、などの今までにない方法を考えないとだめでしょう。

○新たに依頼されたものの発表に取り組んでいる。国や自治体の支援は薄いので、自力で限界まで頑張るしかない。

○長期療養で活動が中断したまま コロナ自粛となったため、周囲よりも活動のペースを戻すのが難しい。

○感染症対策を徹底したうえで、7月から活動を再開しました。多くのお客様に観ていただけないこと、また終演後に感謝の気持ちを直接伝えられないこと、そして、共演者との距離の保ち方に、もどかしさはあるものの、上演できるだけでありたいと感謝しているのが現状です。

○公演を実施すると、観客の制限数があってもそこまで届かないチケット販売数が現状です。経済的に普段の生活も打撃を受けていますが、公演を実施すると全く収入が見込めず、補助を頂くにしても公演の計画が立てられないのが現状です。

○コロナ対策をとりつつ、ようやく活動が戻りつつありますが、コロナ禍前の状態には、まだまだほど遠いです。

●新しい生活様式における展示施設の利用になれていただく。行列を作るほどの、大型のイベントや巡回展まるで興行のようにではなく、等身大の美術鑑賞、施設の利用を模索中。迷走中しているところです。

●来期の公演開催に向け会議を行っています。出演者や舞台業者と準備をすすめています。来春ごろから各公演が始まりますが、開催できるかギリギリまで判断を待つ状況です。

●舞台芸術系の公演事業はキャパ半減、オンライン配信などを組み合わせて実施。市民の発表機会系のイベントは、公演、展示とも密が避けられない、練習ができないなどの理由で中止。また収支が悪化する事業については、やむを得ず中止をおこなった。貸館事業もホール系は壊滅的で先々まで利用が半減以下、今後第2波、第3波が来た場合、返金なども発生する。また主催者もイベントを計画困難な状況である。

●練習を再開しているとはいえ団員の集まりが悪く、正直練習らしい練習はできていません。秋と冬に本番の予定はあるとは言え、状況によっては急遽中止となるかもしれず、モチベーションの維持も難しいのがアマチュア団体の状況だと思います。

●小学生の吹奏楽団をボランティアで運営しています。会場の休館を受けて4～6月はオンラインミーティングを行いました。楽器は吹けませんでした。7月からは会場定員が大幅に縮小されたため、部屋を複数に分け、分散集合してパート練習のみで活動を再開しています。

●7月に公民館が使えるようになり通常練習を再開しましたが、30人中10人ほどしか参加がありません。各々が別のところで仕事を持っているため、その仕事に影響が出てはいけない（感染リスクを上げたくない）からです。個人や各家庭の考え方なので口出しはできません。少しでも安心して歌える場を作って、待ち続けます。

●緊急非常事態宣言の解除で、少し活動し出したところへ、再度の感染の広がり、改めて活動が停止し出しており、困惑している状態です。細々とでも活動を続けなければ仕方がないと考えております。

●現在休眠状態で会員間の情報の交換のみです。沈静化するのを待ってます。

●学校巡演が主な活動の為ほとんどの公演がキャンセルとなった

●普段通り制作、生徒への教える仕事も再開しているが意欲、人数共に低下した。

●ライブやギャラリーを中心に語学レッスン等の文化講座もしているカフェです。3月からはすべて休止し、5月下旬からカフェのみ再開しました。9月下旬には延期していた展示を予定していますが、月に3回は開催していたライブの再開はまだできていません。演奏者の息使いが感じられる空間を目玉にしていたので、難しく、無観客ライブや、オンライン配信をしくおもっているのですが、まだはじめられていません。アートプロジェクトのコーディネーターや事務局もしていますが、そちらのほうの開催もリアルかオンラインかまだ思案しているところです。